

令和6年度 浜松市立中部小学校 学校評価報告書

1 自己評価

自己評価結果、考察及び改善方策
別紙（学校便り）のとおり

2 学校関係者評価

2月10日(月)に開催した学校関係者評価委員会(学校運営協議会)において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ① 小中一貫校ならではの取組について、保護者の評価が低い。9年間の連続した教育システムを目指した開校当初の思いを引き継ぎ、モデル校として成功させてほしいという思いがある。小中一貫校の良さとして、中学生が小学生と関わりをもつ機会があり、他校と比べて優しい子が多い、中1ギャップが少ない等あるが、ならではの強みは少ないかもしれない。部活動や小学校で頑張ったことが繋がる次のステージがあるとよいと考えている。学年が上がるにつれて「夢や目標をもつ」というところが下がってしまっているということが不安。キッズチャレンジでせっかくいろいろなことを学んでいるはずなのに、下がってしまうのは寂しいと感じる。
- ② タブレットの正しい使い方(情報管理、情報モラル等)について児童生徒と保護者の評価が大きく異なっている。学校では制約があるが、家庭は、自由度が高い。子どもの方が大人よりも使いこなしているという現状があり、情報機器の使い方について心配している家庭が多いのではないかと考えられる。大人もルールを決めて取り組まなければいけないという結果でもあると感じている。
- ③ あいさつはまだまだ少ない印象。数年前より“知らない人には挨拶はしない”という風潮もある中で難しい面もあるが、今後も大切にしていきたい。
- ④ いじめについて、困ったことがあったときに相談できる先生や仲間がいるのか、解決することができなくても相談できる仲間がいるのか、相談したときに先生の対応等について心配をしていたが、アンケートの結果を見て少し安心した。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ① 本校ならではの取組として、昨年度から始めた全年友好会(縦割り遊び)の時間がある。これまでは昼休みに実施していたが、より充実した活動にするために、次年度は学級活動の時間に実施する。

学ぶ力を育てるための「チャレンジ学習」や自ら考えて選択する機会を大切にしたい生徒指導、心の健康を保つための「ピア・サポート」プログラム等、これまで本学園で実施してきた取組を体系化し、9年間の連続した教育システムとして機能することを目指す。

- ② これまでと同様に、道徳科やチャレンジタイム（金曜日の朝活動）を使って情報モラル指導を行う。次年度は、不適切な行動によって引き起こされる危険や周囲の人々の思い等について考える機会を積極的に設ける。具体的な場面を取り上げ、自分事として考えたり、異なる考えを聞いたりする活動を大切にし、学園内だけでなく、自由度の高い家庭内でも、自ら判断し、適切に情報機器と関わることができる判断力を育む。
- ③ 中等部生徒の挨拶は、初等部生徒の手本となっている。引き続き、挨拶をすることの大切さを指導すると共に、しばざくら会（生徒会）や生活委員会と協力しながら、気持ちのよい挨拶ができる学園を目指す。
- ④ 児童生徒自身がいじめに関する理解を深め、自分事として、いじめへの対応方法や予防方法等について学ぶことは、いじめが起こらない人間関係を構築する上で必要不可欠である。発達段階に応じていじめに関する指導を継続的に実施する。また、道徳や学活の時間にピア・サポートプログラムを取り入れ、児童生徒同士のつながりを深め、支え合う集団作りを目指す。一方、困ったことがあった時に教員に相談したいと思える児童生徒を増やすためには、児童生徒と関わる時間を大切にした教育計画の実施と共に教員の力量形成も重要である。相談スキル向上を目指した職員研修を定期的の実施する。全職員が一丸となって、心の通い合う温かで優しい人間関係を築き、いじめをしない、いじめを許さない、いじめに立ち向かう児童生徒と育て、いじめを絶対に許さない風土を醸成する。